

論文内容の要旨

専攻名 (課程名)	多文化社会学専攻 (博士前期課程)	氏名	祝永銘
題名	在日ベトナム人の起業活動に関する研究 －大阪市生野区におけるエスニック・ビジネス集積の事例から－		
研究の背景 <p>近年、日本に在留する外国人数は増加を続け、2024 年末には約 377 万人に達している。なかでもベトナム人は若年層を中心に急増し、永住や経営・管理資格の拡大とともに、定着化・多様化が進行している。これに伴い、大都市圏ではベトナム人経営によるエスニック・ビジネスの集積が進むとともに、SNS を介した相互扶助的ネットワークが移住から起業に至る過程を支えている。先行研究は、在日ベトナム人をめぐる制度や労働、コミュニティ、エスニック・ビジネスに関する知見を蓄積してきたが、起業家個人の来日経験が各段階でいかに再編され、起業資源へと結びつくのかを時間的プロセスから捉えるミクロな分析は十分とはいえない。</p>			
研究の目的 <p>本論文の目的は、2024～2025 年に実施した大阪市生野区新今里地区での調査をもとに、在日ベトナム人によるエスニック・ビジネスの集積事例を分析し、起業活動の実態と来日経験がそれに及ぼす影響を明らかにすることである。本研究では、来日後の就学・就労・居住に関わる生活史および社会的ネットワークを「来日経験」と捉え、それらが起業資源としていかに動員されるのかに着目する。分析にあたっては、起業家個人の移動経路や就労経験、対人関係に基づくミクロな視点から、起業活動との関連を検討する。</p>			
研究の方法 <p>本研究では、参与観察と半構造化インタビューを中心とする質的調査を行った。調査対象は、大阪市生野区新今里地区における在日ベトナム人経営のエスニック・ビジネスである。参与観察により店舗の立地や運営実態を把握し、2024～2025 年に実施したインタビューでは、起業家や従業員等を対象に来日経験や起業過程について聴取した。これらのデ</p>			

ータをもとに、来日経験と起業活動との関係をミクロな視点から分析した。

研究結果

本研究の結果、大阪市生野区新今里地区における在日ベトナム人の起業活動は、地域構造と起業家個人の来日経験が重層的に結びつくことで成立していることが明らかになった。新今里地区は、在日朝鮮人の集住地域としての歴史的蓄積を背景に、近年はベトナム人をはじめとするニューカマー外国人の流入によって再編され、低廉な家賃や空き店舗、交通利便性、支援資源の存在により、外国人にとって参入しやすい生活・起業環境が形成されている。こうした地域条件のもと、飲食店や食材店を中心とするベトナム系小規模店舗が集積し、生活支援や情報交換の拠点として機能している。さらに、事例分析から、来日前準備や来日後の学習・就労経験、副業を含む来日経験が、資金調達や物件確保、顧客基盤の形成へと段階的に結びついていることが示された。以上より、新今里における在日ベトナム人の起業活動は、人口動向、地域条件、個人の来日経験が相互に埋め込まれる中で展開しているといえる。

考察と課題

本研究の考察から、新今里における在日ベトナム人の起業活動は、「来日前準備」「留学・就労初期」「副業・資源蓄積」「新今里での起業」という四つの段階から成る来日経験の累積的過程として把握できることが明らかになった。起業は、特定の時点における意思決定ではなく、来日前から来日後にかけて形成されてきた人的資本、社会関係、生活拠点が、時間の経過とともに再編され、特定の地域空間に埋め込まれていく過程として理解される。とりわけ新今里での起業段階では、低廉な家賃や空き店舗、交通利便性といった地域条件に加え、来日後に構築された人間関係が、物件選択、店舗運営、雇用配置、顧客層の形成といった具体的な経営実践へと結びついていた。これらの実践は、起業家個人の来日経験が、地域空間の条件と重なり合いながら再編される「埋め込み」の過程を示している。

一方、本研究は、分析対象が若年層に偏っている点や、起業後の事業展開、起業家以外の関係主体の視点を十分に扱えていないという課題を残している。今後は、事例の拡張や継続的調査を通じて、来日経験とエスニック・ビジネスの動態をより多角的に検討する必要がある。

※作成に当たっては、文字は10.5ポイントでA4用紙2枚以内とする。

Summary of Thesis Content

Thesis Title: A Study on the Entrepreneurial Activities of Vietnamese Residents in Japan: A Case Study of Ethnic Business Clusters in Ikuno Ward, Osaka City

Name: Zhu Yongming

This thesis examines ethnic business clustering among Vietnamese residents in Japan through fieldwork conducted between 2024 and 2025 in the Shin-Imazato area of Ikuno Ward, Osaka City, with the aim of clarifying the characteristics of their entrepreneurial activities and the role of migration experiences in entrepreneurship.

Using qualitative methods—primarily participant observation and semi-structured interviews with entrepreneurs and employees—the study analyzes how post-migration life histories and social networks are mobilized as entrepreneurial resources from a micro-level perspective.

The findings reveal that Vietnamese entrepreneurial activities in Shin-Imazato emerge through the multilayered embeddedness of local structural conditions and individual migration experiences. Historically shaped as an area of Korean settlement, Shin-Imazato has been reorganized through the inflow of newcomer migrants, where low rents, vacant properties, transport accessibility, and support resources have fostered clusters of small-scale Vietnamese businesses that function as hubs for daily life support and information exchange. Case analyses further show that migration experiences—ranging from pre-arrival preparation and early education and employment to side businesses—are sequentially linked to capital acquisition, site selection, and customer formation. Overall, entrepreneurship is understood not as a single decision but as a cumulative, stage-based process in which human capital and social relationships formed before and after migration are reorganized and embedded within a specific local space. While this study contributes by conceptualizing Vietnamese entrepreneurship as a four-stage migration process, it is limited by its focus on younger entrepreneurs, early business stages, and entrepreneurs' perspectives, pointing to the need for future research incorporating broader generational comparisons and longitudinal approaches.

※作成に当たっては、文字は10.5ポイントでA4用紙2枚以内とする。